

新型インフルエンザに関する学生の認識調査

The present realization of the *influenza pandemic* among the undergraduate student

笠原 恵 (兵庫教育大学大学院学校教育研究科 自然・生活教育学系)

Megumi KASAHARA (Graduate School of Education, Hyogo University of Teacher Education)

榊田 容子 (理化学研究所・システムバイオロジー)

Yoko SAKAKIDA (RIKEN Center for Developmental Biology, Laboratory for Systems Biology)

渥美 茂明 (兵庫教育大学大学院学校教育研究科 自然・生活教育学系)

Shigeaki ATSUMI (Graduate School of Education, Hyogo University of Teacher Education)

新型インフルエンザが平成21年春頃から高等学校を初めとして小中学校にまで流行し、平成21年5月には兵庫県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校において一斉に約1週間の学校閉鎖が行なわれた。本学も1週間、休講措置がとられた。本学は、初等教育教員養成課程であり、小学校の教員を目指す学生が多く在籍している。将来、児童・生徒に関わっていく学生が、どの程度、新型インフルエンザに対して危機感をもっているか、また新型インフルエンザのみならずインフルエンザ自体に関する認識がどの程度あるのかについて、アンケート調査を行なった。アンケート調査の結果から、従来のインフルエンザにかかった経験がある学生が多いにもかかわらず、また新型インフルエンザの流行している時期での調査にもかかわらず、インフルエンザについての知識は正確なものではなく、感染や予防についての知識も曖昧な学生が多いことがわかった。これらのことは、学生がインフルエンザなどの学校伝染病に関する正しい知識の構築ができるような取組みが、さらに今後必要になってくることを示唆している。また、教育現場においても、新型インフルエンザウイルスに関する正しい知識や感染・予防に対する正確な知識の伝達の必要性を感じる。

キーワード：新型インフルエンザ， 認識度， アンケート調査， 初等教育教員養成課程， 理科

1. 問題と目的

平成21年5月に、新型インフルエンザが高等学校をはじめとして小中学校にまで流行し、兵庫県においては1週間以上の学校閉鎖が行なわれた。この期間は、兵庫県内のほとんどの大学においても学園閉鎖等の措置がとられた。その後、9月以降も児童・生徒の間で感染が広がっている。本学も平成21年5月に1週間、休講措置がとられた。本学は、初等教育教員養成課程であり、小学校の教員を目指す学生が多く在籍している。将来、児童・生徒に関わっていく学生が、どの程度、新型インフルエンザに対して危機感をもっている

のか、また新型インフルエンザのみならずインフルエンザ自体に関する知識がどの程度あるのかについて調べ、検討するため、アンケート調査を行なった。

2. 方法

2.1 調査対象

調査対象は、『初等理科 I』を受講していた初等教育教員養成課程学校教育学部1年生169名および大学大学院学校教育研究科小学校教員養成特別コース1年生34名の合計203名とした。調査対象についての詳細は、表1および図1に示す。

表 1 調査対象（人数）

	男性	女性	不明	合計
学部 1 年生	48	103	18	169
大学院 1 年生	12	14	8	34
合計	60	117	26	203

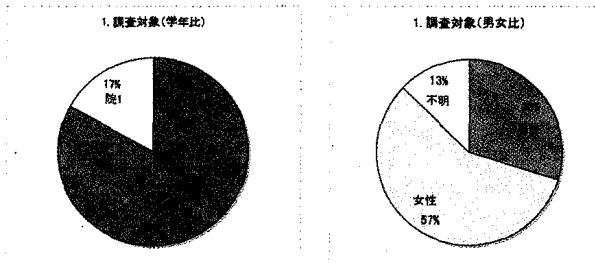


図 1 調査対象の学年比および男女比

2.2 質問項目

調査は、図 2 に示すアンケート用紙を用いて質問紙法で行った。アンケート調査の質問項目は、主に、インフルエンザへの罹患歴について、インフルエンザウイルスに関する知識について、インフルエンザに対するの感染防止についてである。

2.3 調査結果の集計

調査結果は、それぞれの質問項目に対して集計し、その数値データをグラフで示した(図 3-図 18)。

3. 調査結果と考察

3.1 過去のインフルエンザの感染歴等について

過去にインフルエンザにかかったかとの質問に

インフルエンザに関するアンケート調査

選択肢のあるものは、該当するものに○を付けて下さい。また、() の欄があるものについては、記入をして下さい。

- 学部 1 年 大学院 1 年 女性 男性
- これまでにインフルエンザにかかったことはありますか？ ある (回) ない 不明
- 最近 3 年以内にインフルエンザにかかりましたか？ かかった かかっていない 不明
- インフルエンザの予防接種について次のどれにあてはまりますか？
 - ・毎年受けている ・毎年ではないが何年かおきに受けている
 - ・受けたことがある ・受けたことがない
- 今年、インフルエンザの予防接種を受けますか？ 受ける 受けない わからない
- インフルエンザの型には、何型がありますか？ ()
- インフルエンザウイルスは、次のどのタイプに属しますか？
 - ・DNA ウイルス ・RNA ウイルス ・細菌 ・バクテリオファージ ・わからない
- インフルエンザウイルスは、生物ですか？ はい いいえ わからない
- インフルエンザウイルスは、ウイルスだけで増殖できますか？ できる できない わからない
- インフルエンザウイルスは、ヒトのどの細胞に感染しますか？
 - ・すべての細胞 ・皮膚の細胞 ・粘膜細胞 ・口腔細胞 ・神経細胞 ・わからない
- 新型インフルエンザは、何型インフルエンザの亜種に含まれますか？ (型) わからない
- 新型インフルエンザの H1N1 の意味を知っていますか？ 知っている 知らない
- 新型インフルエンザには、どの薬が効果的ですか？ (複数回答 OK)
 - ・抗生物質 ・タミフル ・リレンザ ・抗真菌薬 ・わからない
- 新型インフルエンザの確定のために使う PCR 法とは、何を調べるものですか？
 - ・ウイルスのタンパク質 ・ウイルスの核酸 ・ウイルスの脂質 ・わからない
- 新型インフルエンザの流行時において、マスクを着用するのは、どのような状況の時ですか？ (複数回答 OK)
 - ・バスや電車の中 ・人ゴミの中 ・トイレの中
 - ・犬の散歩中 ・車を運転しているとき ・家にいる時 ・お店の中
 - ・教室の中 ・いつでも ・どんな時もマスクは着用しない ・その他 ()
16. 新型インフルエンザについての以下の記述について正しいと思うものに○、間違っていると思うものに×を付けて下さい。
 - ・インフルエンザにかかった人が調理した料理を食べて、インフルエンザに感染した。()
 - ・インフルエンザウイルスは母親から胎内にいる子へ感染する。()
 - ・インフルエンザウイルスは、常に空気中に存在し、秋以降になるとそのウイルスがヒトへ感染して流行を起こす。()
 - ・新型インフルエンザは、流行しやすい気候になると豚からウイルスが湧いて出てヒトに感染する。()
 - ・インフルエンザにかかった人と握手をすると、その手の接触により皮膚からウイルスが感染する。()
 - ・インフルエンザは常に世界中のどこかにかかった人がいて、そのウイルスが感染し流行を起こす。()
 - ・鳥インフルエンザは、直接、人に感染する。()
 - ・豚インフルエンザは、直接、人に感染する。()
 - ・鳥インフルエンザや豚インフルエンザが流行している時は、豚肉や鶏肉は食べない方がよい。()
 - ・インフルエンザは、くしゃみや咳とともに放出されたウイルスを吸い込むことにより感染する。()

図 2 アンケート調査質問項目

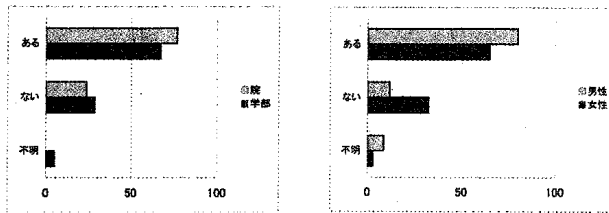


図3 質問2 インフルエンザにかかったことは (割合)

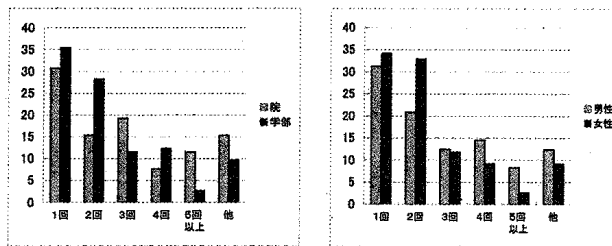


図4 質問2 これまでにかかった回数 (割合)

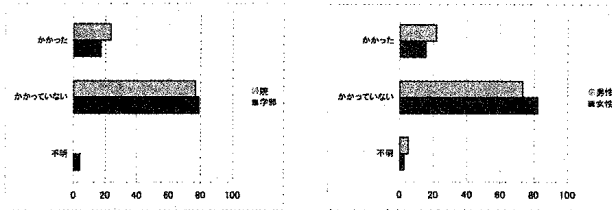


図5 質問3 3年以内にかかったか (割合)

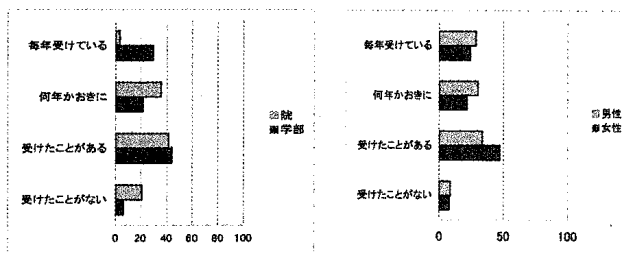


図6 質問4 予防接種について (割合)

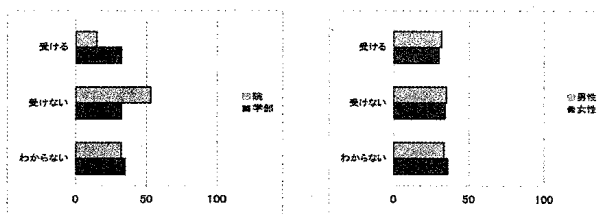


図7 質問5 今年、予防接種を受けるか (割合)

対して、7割近くの学生が罹った事があると答えた。また、罹った事が無いと答えた女性が男性より多かった(図3)。そして、罹った回数が4,5回以上の方は、男性の方が多かった(図4)。さらに3年以内に罹患した人は、2割程度であった(図5)。予防接種に関する質問では、過去の接種状況と今年の接種希望状況では、ほとんど違いは見られなかった(図6, 図7)。これらのことから、過去にインフルエンザに罹患した学生が多いにも関わらず、また、新型インフルエンザが流行している時期にも関わらず、予防接種を受けたいと思っている学生の割合は高くなく、インフルエンザに関する危機感が薄いと考えられる。

3.2 インフルエンザおよびインフルエンザウイルス等に関する知識について

調査対象の学生の多くは、大学の講義の中で、生物学や理科に関する講義を受講している。そこで、インフルエンザおよびインフルエンザウイルスに関する知識は、ある程度は持っていると言及できる。調査結果を図8~図16に示す。調査結果から、インフルエンザ自体についても、またインフルエンザウイルスに関しても、正確な知識を持っているとは思えない結果であった。特に、ウイルスを生物だと理解している学生が5割にも上ることや、新型インフルエンザがインフルエンザA型の亜種である事を知らない学生が多い事、それに関してインフルエンザのH1N1の意味を知らない学生がほとんどであるという結果は、驚くべきことであった。新型インフルエンザが流行している時期に、そして、今日の情報化社会にあって、こういう現状であるという事は、大学における科学教育や生物教育のあり方もさらに検討すべき課題であると思われる。

3.3 インフルエンザの感染防止について

インフルエンザの感染防止の対策に、日

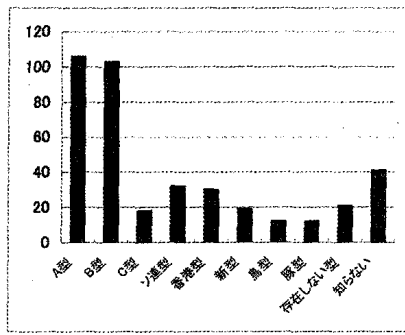


図 8 質問 6 インフルエンザには何型があるか (人数)

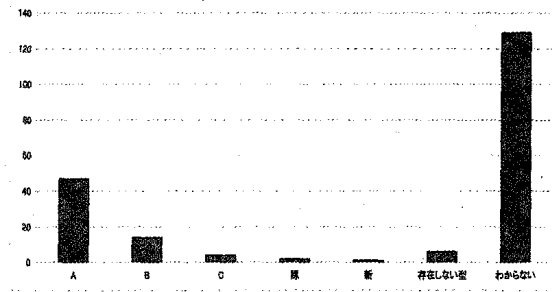


図 13 質問 11 何型インフルエンザの亜種か (人数)

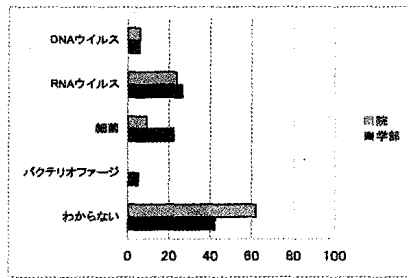


図 9 質問 7 インフルエンザウイルスのタイプは (割合)

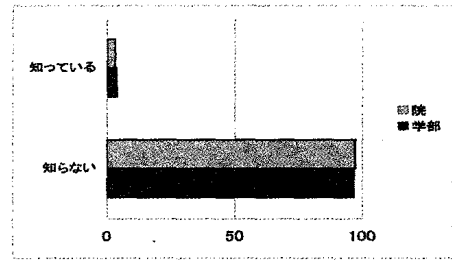


図 14 質問 12 H1N1 の意味は (割合)

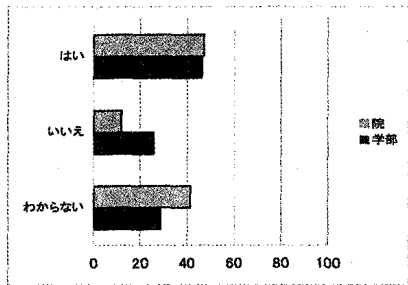


図 10 質問 8 ウイルスは生物か (割合)

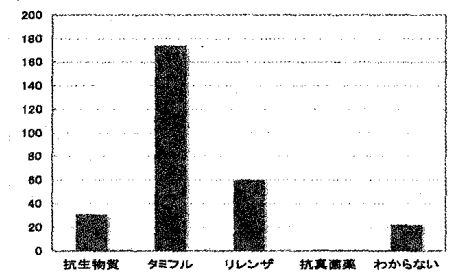


図 15 質問 13 どの薬が効果的か (人数)

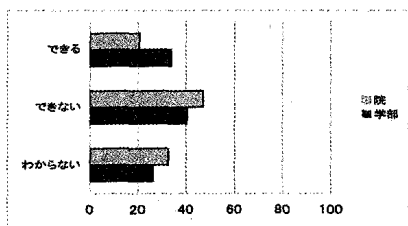


図 11 質問 9 ウイルスだけで増殖できるか (割合)

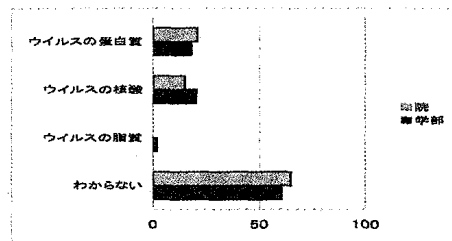


図 16 質問 14 PCR 法とは何を調べる方法か (割合)

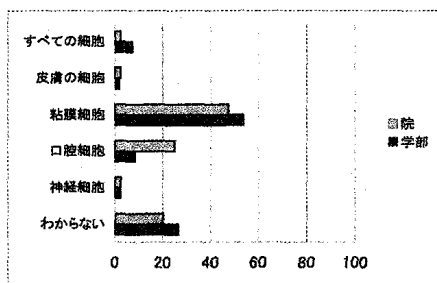


図 12 質問 10 どの細胞に感染するか (割合)

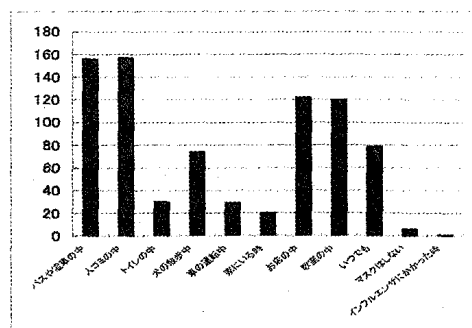
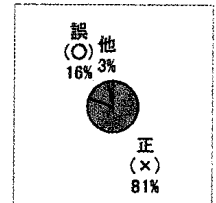
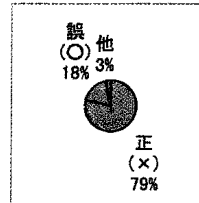
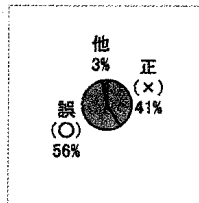
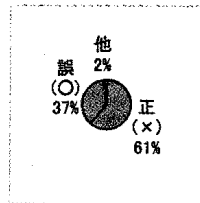
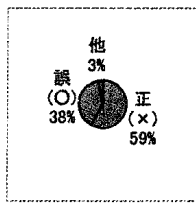


図 17 質問 15 マスクを着用する時は (人数)

- ・ かかった人が調理した料理を食べて感染した
- ・ 母親から胎内にいる子へ感染する
- ・ インフルエンザウイルスは常に空気中に存在
- ・ ブタからウイルスが湧いて出て人に感染する
- ・ 手の接触により皮膚から感染する



- ・ 常に世界中のどこかにかかった人がいて
- ・ 鳥→人に感染
- ・ 豚→人に感染
- ・ 豚肉や鶏肉は食べない
- ・ くしゃみや咳と共に放出されたウイルスで感染

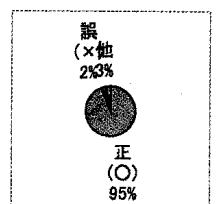
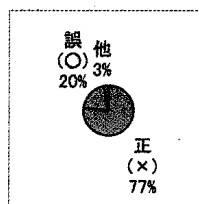
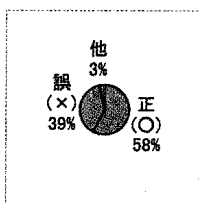
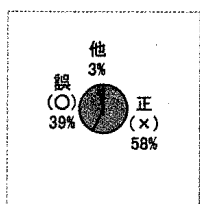
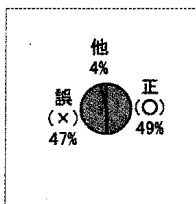


図 18 質問 16 の各事項の正答率

本では、マスクの着用が推奨されている。そこで、実際にどのような場合にマスクを付けているのか、そして、正しく着用できているのかについて、調査した（図 17）。人が密集している状況では、着用すべきである事は、概ね理解されているが、最も必要であると考えられるインフルエンザに罹った時の着用が非常に少ない点は、今後の防止策の検討事項であると思われる。さらに、感染防止に繋がるインフルエンザの認識についての調査では、インフルエンザウイルスが常に空気中に存在しているという誤った認識を持っている学生が多かった（図 18）。また、常に世界中のどこかにインフルエンザに罹っている人がいるという認識も低かった。これらのことから、感染防止対策を行う上でも、インフルエンザについての正しい認識が必要であると考えられる。

4. まとめ

アンケート調査の結果から、従来のインフルエンザにかかった経験がある学生が多いにもかかわらず、また新型インフルエンザの流行

している時期での調査にもかかわらず、インフルエンザについての知識は正確なものではなく、感染や予防についての知識も曖昧な学生が多いことがわかった。また、情報化時代に育ってきた学生でありながら、社会の情勢に目を向け、様々な情報を有効に利用していないことが伺える。

これらのことは、学生がインフルエンザなどの学校伝染病に関する正しい知識の構築ができるような取組みが、さらに今後必要になってくることを示唆している。また、実際の教育現場においても、新型インフルエンザウイルスに関する正しい知識や感染・予防に対する正確な知識の伝達の必要性を強く感じる。

参考資料

- ・ 厚生労働省ホームページ
新型インフルエンザ対策関連情報
- ・ 国立感染症研究所ホームページ
感染症情報センター〈インフルエンザ〉